

アメリカで育てる

永住や長期滞在の子どもの教育のために

INFOE（海外子女教育情報センター）
松本輝彦

第 15 回

コミュニティ・カレッジから4年制大学へ

-- ヒロ君の挑戦（4） --

アメリカに住む日本人の子ども達は多様です。成績優秀で有名大学へ、という高校生ばかりではありません。ゼロから再スタートして大学を卒業できる。そんな、アメリカだから与えられる「セカンド・チャンス」を生かして、コミュニティ・カレッジ（以下、カレッジ）から有名4年制大学への転入学（transfer）に挑戦するヒロ君のお話です。

ヒロ君、カレッジの2年目に！

昨年9月に始まったヒロ君の2年目のカレッジ生活も、この12月に秋学期が修了し、冬休みに入りました。

1年目の初めは、勉強の仕方が分からず少し手間取ったものの、その後は順調に勉強・学生生活が進みました。

ところが、2年目にはいって2ヶ月しか経っていない11月、早くも4年制大学への転入学の出願が始まり、その手続きを完了しました。今回は、このお話を中心に。

4年生大学への出願

他の州と少し違って、カリフォルニア州は高校生人口が多く、大学進学希望者も多いので、翌年秋の入学に向けての出願の締め切りが11月末と早くなっています。

高校在学中で卒業後新1年生（Freshman）としての出願は、高校の最終学年12年生の秋に行います。カレッジから3年生（Junior）に転入学する場合は、カレッジの2年目が始まったばかりの11月出願となるわけです。

新1年生の出願には、高校（10・11年生）の学業成績と統一試験（SATやACT）、そしてエッセイなどの提出が必要ですが、転入学の出願にはカレッジの1年生の成績とエッセイだけで、統一試験の成績は必要ありません。

出願者への、入学許可（合格発表）の通知は、一般的に3月はじめから郵便で送られてきます。

カレッジ1年目の成績で決まり！？

要するに、カレッジからの転入学のためには、カレッジ1年目の学業成績だけを提出すればいいということです。

具体的には、進学を希望する大学・学部の要求する科目の単位・成績を取得し、求められる成績評点平均（Grade Point Average, GPA）の最低基準をクリアすれば、出願できるのです。

高校生としての出願は、中学校からの勉強の積み上げの

上に、様々な分野の必修科目を数多く履修し、よい成績を修める。さらに、高校での日頃の勉強内容とは少し異なる、出題範囲の非常に広い実力テストのような統一試験で高い得点を挙げなければ、競争の激しい州立大学への入学を勝ち取ることはできません。

ところが、カレッジからの転入学の場合は、たった1年間、実質的に30週にも満たない期間の集中した勉強の結果だけで、同じ大学、それも3年生へ進学できるのです。

これが「セカンド・チャンス」です。子どもの頃から、勉強で決していい思いをしたことのないカレッジの学生が、9回裏に逆転満塁ホームランを打つことができるのです。

ヒロ君の目標

ヒロ君の4年制大学の目標は、カリフォルニア大学（University of California, UC）の9つあるキャンパスの上位校です。第一希望はUCLA（UC, Los Angeles キャンパス）です。

カリフォルニア州には、US システムの他にもうひとつ California State University（CSU、23 キャンパス）という4年制大学のシステムがあります。

CSU へは州の高校卒業生の上位3割程度、UC へは上位1割が入れるように、入学者定員が大まかに決められています。

出願にあたっては、UC と CSU は別々に、それぞれの進学希望のキャンパスを選ばなければなりません。キャンパスにより、出願数や競争率が異なるのは当然です。それだけではなく、出願者の GPA の平均も大きな差、すなわち優秀な生徒が集中するキャンパスがあります。

ヒロ君の第一志望の UCLA は、トップ2～3%の高校卒業生しか進学できない大学です。そこで、ヒロ君は、出